

第6学年国語科学習指導案

日時 令和4年10月27日(木) 5校時
児童 男子3名 女子2名 計5名

1 単元名 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

(教材「『鳥獣戯画』を読む」「調べた情報の使い方」「日本文化を発信しよう」光村図書6年)

2 単元の目標

〔知識及び技能〕	○日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。((3)オ)
〔思考力, 判断力, 表現力等〕	○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(B(1)イ) ◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)エ) ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。(C(1)ウ)
〔学びに向かう力, 人間性等〕	○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

3 本単元における言語活動

学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して調べた情報を知らせるリーフレットを作る。

4 単元について

(1) 児童について

- 1学期の教材「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」では、挙げられている事例を図表と結び付けて筆者の考えを読み取り、自分の考えを具体的事例を挙げて発表する学習を通して、事例を挙げる効果を知り、読み手を引きつける双括型の論の進め方について理解を深めてきた。
- 1学期の教材「私たちにできること」においては、文章全体の構成や展開を考えて、具体的な事実を基に自分の考えを書く活動を行った。筋道の通った文章を意識しながら、自分の思いや考えが相手に伝わるように資料から言葉を引用するなどの書き表し方を工夫して文章を書き進めることができた。
- 読書は好んで行うが、長編の物語等を読むことに苦手意識を感じている児童が多く、ジャンルにも偏りが見られる児童もいた。しかし、ブックトークや必読図書の取り組みなどを通して少しずつ読書の幅が広がってきている。

(2) 教材について

- 本単元は、「『鳥獣戯画』を読む」を表現の工夫を捉えて読み、そこで学んだ表現の工夫を生かして、学校図書館などを利用して調べた日本文化について書く複合単元である。
- 教材文の中に『鳥獣戯画』が分かりやすく配置されており、漫画、アニメの祖として紹介され、児童に親しみやすい教材である。絵と文が対応して書かれていることで、筆者が何に着目し、どのような言葉で説明や評価をしているか、表現の工夫を捉えることができる。表現の工夫や論の展開などを単元後半のリーフレット作りに生かすことができ、読み手としてだけでなく書き手の立場も意識して読むことができる。

<単元のつながり>

	単元名	内容
5年	固有種が教えてくれること	文章以外の資料を用いた効果を考えながら読む。
	統計資料の読み方	統計資料を読むときに注意することや確かめておくことを知る。
	グラフや表を用いて書こう	目的に合った資料を選び、資料と文章を対応させて書く。
6年	笑うから楽しい/時計の時間と心の時間	筆者の主張と、それを支える事例を捉え、自分の考えをまとめる。
	利用案内を読もう	必要などころを選んで読んだり、複数の情報を組み合わせて考えたりする。
	『鳥獣戯画』を読む	筆者の考え方と資料や言葉の使い方の工夫を捉える。
	調べた情報の使い方	著作権を尊重し、調べた情報を適切に用いる。
	日本文化を発信しよう	伝えたいことに合わせた構成を考える。
	メディアと人間社会/大切な人と深くつながるために	論の展開や表現の仕方に着目して複数の文章を読み、考えを交流する。
	今、あなたに考えてほしいこと	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる。

<参考図書>

- 「ニッポンの紹介3日本のくらし」パトリック＝ハーラン 英語指導/こどもくらぶ 編 (岩崎書店)
- 「花火の大図鑑」日本煙火協会 監修/泉谷玄作 写真 (PHP 研究所)
- 「日本人の伝統的な食文化和食」服部津貴子 監修/こどもくらぶ 編 (WAVE 出版)
- 「日本の伝統文化和食」(全6巻) 江原絢子 監修 (学研教育出版)
- 「和食のすべてがわかる本」(全4巻) 服部幸應・服部津貴子 監修/こどもくらぶ 編 (ミネルヴァ書房)
- 「調べてみよう!日本の職人伝統のワザ」(全7巻) (学研教育出版)
- 「こどもに伝えたい和の技術」(現 全12巻) 和の技術を知る会 (文溪堂)
- 「みたい!しりたい!しらべたい!日本の祭り大図鑑」(全4巻) 松尾恒一 監修・著 (ミネルヴァ書房)
- 「日本の伝統競技」寒川恒夫 監修 (PHP 研究所)
- 「和服が分かる本」こどもくらぶ編 (岩崎書店)
- 「かえるのごほうび」木島始 (福音館書店)
- 「まんが日本美術史1」(美術出版社)
- 「日本の伝統芸能を楽しむ 能・狂言」中村雅之 (偕成社)
- 「日本の伝統芸能を楽しむ 歌舞伎」矢内賢二 (偕成社)
- 「日本の伝統芸能を楽しむ 文楽」岩崎和子 (偕成社)
- 「日本の伝統芸能を楽しむ 落語・寄席芸」大友浩 (偕成社)
- 「こども伝統芸能シリーズ 狂言 茂山宗彦・茂山逸平 私達のご案内します」(アリス館)
- 「こども伝統芸能シリーズ 歌舞伎 市川染五郎 私がご案内します」(アリス館)
- 「絵で見てわかる はじめての古典 能・狂言・歌舞伎」菱田茂 (学研教育出版)

(3) 指導にあたって

手だて1 「読書」を生かした単元づくり

- 日本文化について書かれた本を読み、その魅力を伝えるリーフレットを作成する
- ・ 本単元では、日本文化について考えたことや伝えたいことをパンフレットという形で文章にする言語活動を設定する。単元に入る前に、日本文化について書かれた本の図書コーナーを設置し、自分が紹介したい日本文化を選ぶ環境を整えておく。読書を通して、自分を取り上げた日本文化についての魅力を探るとともに、学習を通して学んできた筆者の解説の仕方や評価の述べ方、資料の効果的な提示の仕方等にも着目して読み進め、リーフレット作りに生かす。完成したリーフレットを学校図書館や藤沢図書館に展示することで全校児童や地域の方々にも知らせるという活動を単元のゴールとする。

手だて2 言葉による見方・考え方を働かせ、多面的に捉えさせる工夫

- 筆者が自分の考えを伝えるためにどんな工夫をしているかを見付け、その効果について考えさせる
- ・ 導入で、扉の絵を解説する時間を設定することで、解説文を書く難しさを体験し、筆者が読み手を引きつけるためにどんな工夫をしているかという学びにつなげる。
- ・ 絵と文を照らし合わせながら、どの部分に目を付けて説明し、どんな言葉でよさを表しているかという視点を与え、筆者の解説部分（事実）と評価の部分（考え）をサイドラインの色分けをしながら読むことにより、事実と筆者の考えを区別して捉えることができるようにする。
- ・ 児童自らが引き付けられた表現の工夫を、なぜ引き付けられたのかと問う発問をすることで、読み手を引き付ける言葉や文に着目して読み、筆者の工夫や効果について捉えることができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(3)オ)	① 「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B (1) イ) ② 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B (1) エ) ③ 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C (1) ウ)	① 粘り強く、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりし、学習の見通しをもって、調べた情報を知らせるリーフレットを作ろうとしている。

6 単元の指導計画及び評価計画 (全 14 時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	主な評価規準
第1次	1 2	○『『鳥獣戯画』を読む』の扉の絵の解説文を書いてみる。 ○筆者について知る。 ○文章構成を捉え、要旨をまとめる。 ○単元のゴールが日本文化を発信するリーフレット作りであることを知り、学習計画を立てる。	○解説文を書く難しさを体験させ、筆者が読み手を引きつけるためにどんな工夫をしているかという学びにつなげる。(手2) ○『『鳥獣戯画』を読む』の学習から学んだ表現の工夫を生かして、日本文化について考えたことや分かったことを書きまとめる学習であ	

			る見通しをもたせる。 (手1)	
第2次	3 4	○絵と文を照らし合わせながら、 筆者が「鳥獣戯画」をどう読んで いるかを明らかにする。 ○筆者の「絵についての評価」と 「絵巻物についての評価」を読 み取る。	○筆者の解説部分(事実)と 評価の部分(考え)をサイ ドラインの色分けをしながら 読ませることにより、事 実と筆者の考えを区別して 捉えることができるように する。(手2)	【知】読書に親しみ、読書によ って解説の仕方や表現の工夫 についての見方や考え方を広 げられることに気付いている か確かめる。[観察・記述] 【思C】筆者が伝えたいことと 絵などの資料の使い方や表現 の工夫、論の進め方の効果に ついて捉えているか確かめ る。[発言・記述]
	5 【本時】 6	○筆者が自分の考えを伝えるた めの工夫を書き出す。 ○「表現の工夫」「絵の示し方」 「論の展開」の順で筆者の工夫 の効果について考える。	○言葉や文に着目させて読 み、筆者の工夫や効果につ いて捉えることができるよ うにする。(手2)	【思C】文章と図表などを結び 付けて必要な情報を見付け ているか確かめる。[発言・記 述]
	7	○「調べた情報の使い方」を読み、 著作権への理解を深める。	○引用や出典などの既習事項 は簡単に確認する程度にす る。	【主】文章と図表などを結び付 けて必要な情報を読み取るこ とに粘り強く取り組み、学習 の見通しをもって複数の本を 選んで読もうとしているか確 かめる。[観察・記述]
	8	○日本文化について並行読書し てきた本について、表現の工夫 に着目しながら再読し、視点に 沿ってまとめ、交流する。	○これまでの学習を生かし て、筆者の工夫と関連付け て考えられるようにする。	
第3次	9 10	○発信する日本文化を決め、リー フレット作りの構想を練る。 ○必要に応じて、詳しく調べる。	○並行読書してきた本の中か らテーマを決め、大まかな 内容を考えさせる。(手1)	【思B】伝えたいことを明確に し、効果的に伝わるよう、紙 面構成を考え、文章全体の筋 道を整えているか確かめる。 [記述]
	11 12	○リーフレットの構想割り付け をし、下書きを書く。	○これまでの経験やp154下 段の例を参考にさせる。 ○下書きの段階で、学習して きた解説の書き方、言葉の 工夫、論の展開、資料の提 示の仕方等を考え、交流し ながらよりよくさせる。	【思B】引用したり、絵や写真 などと文組み合わせを考えたり して、伝えたいことが伝わ るように書き表し方を工夫し ているか確かめる。[記述]
	13	○リーフレットを清書し完成さ せる。	○出典が明示されているかな どを確認させる。	【主】日本文化に興味をもち、 構成や表現を工夫して書き表 すことに粘り強く取り組み、 学習の見通しをもってリーフ レットを作ろうとしている か確かめる。[観察・記述]
	14	○それぞれのリーフレットに対 する感想を伝え合い、単元の振 り返りを書く。	○感想を伝え合う際には「た いせつ/いかそう」と関連 付けてまとめる。 ○「ふりかえろう」で単元の 学びを振り返る。「読むこ と」の観点にも注意する。	【主】学習を振り返り、これか ら日本文化に関わる本を読ん だり、絵や写真などを用いた文 章を書いたりするときを生か していこうとしているか確か める。[観察・記述]

7 本時の指導

- (1) 目標 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	主な発問と指示 (○) 予想される児童の反応 (■)	指導上の留意点 (※) 評価 (◎)
導入 5分	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">読み手を引きつける高畑さんのスゴ技を見つけよう。</div> <p>2 課題解決の見通しをもつ。</p>	<p>○ (1枚目の絵を提示して、) この絵の説明 A と B で「おもしろい!」「続きが読みたい!」と思ったのはどちらですか。</p> <p>■教科書の方です。</p> <p>○それはなぜそう思ったのですか。</p> <p>■「はっけよい」で始まっていておもしろい。</p> <p>■実況中継みたい。</p> <p>○今日も高畑さんのスゴ技を見つけ、どんな効果があるのかをまとめていきましょう。そして、リーフレット作りに生かしていきましょう。</p> <p>■単元のめあてと本時の課題を学習計画表で確かめる。</p>	<p>※筆者の読み手を引きつけるための技がかくれていることに気付かせ、本時の課題につなげる。</p> <p>※本時のゴールであるまとめには、高畑さんのスゴ技(筆者の工夫)を自分でまとめたものが入ることを確認しておく。</p> <p>※本時は筆者が自分の考えを伝えるために、どのような工夫をしているのかを見付け、今日見付けた表現の工夫を、ゴールとなるリーフレット作りにも生かすことを見通しとしてもたせる。(手1)</p>
展開 35分	<p>3 見つけた言葉の工夫にサイドラインを引く。(一人学び)</p> <p>4 全体で交流する。</p>	<p>○スゴ技その1 はじめにみんなが見付けた「はっけよい」はどんな工夫でしょう。</p> <p>■言葉の工夫</p> <p>■表現の工夫</p> <p>○スゴ技その1は、言葉に着目しましょう。</p> <p>○どんな言葉、書き方のスゴ技を見付けましたか。</p> <p>■下段</p> <p>○みんなが見付けたスゴ技その1の工夫は、どんな効果があると思いますか。</p> <p>■「返し技」「かわず掛け」(体言止め、リズム感)</p> <p>■一文が短い(テンポ、リズム感)</p> <p>■「おっと」「なんと」(臨場感)</p> <p>■「～としか思えない」「～にちがいない」(強い言い方で説得力)</p> <p>■「ためしに、ぱっとページをめくってごらん」(語りかけで読み手に寄り添う)</p> <p>○スゴ技その2 絵に着目しましょう。</p> <p>■3枚ある。</p> <p>■一つの絵を、部分で出している。</p> <p>■「わかりやすいように、わざと切りはなして……。」と書いてある。</p> <p>○スゴ技その2の工夫は、どんな効果があると思いますか。</p> <p>■わかりやすく伝えることができる。</p>	<p>※言葉や文章に着目させて読み、筆者の工夫や効果について捉えることができるようにする。(手2)</p> <p>※スゴ技その1は「言葉の表現の工夫」であることをおさえる。</p> <p>※全体で交流する前に、一人学びの後半には、ペアでの交流を設け、一人学びに付け加える。</p> <p>※工夫による効果について、全体で考えていく。</p> <p>※絵だけでなく、絵についての記述にも着目させる。</p> <p>※筆者の意図があることにも触れる。</p>

	5 学習のまとめをする。	○高畑さんの今日のスゴ技をまとめましょう。 〈高畑さんのスゴ技〉 ① 書き出しの工夫 ② 短い文ではっきり言い切る ③ 丁寧な資料の示し方 ④ 読み手に話しかける など	◎筆者の意図に合わせて、文章と絵を結び付けるなどして、筆者の書き表し方の工夫を見付けている。 [発言・記述] ※7段落の最後の文に着目させ、次時、7段落の続きの解説文を学んだスゴ技を使って自分で書いてみることを伝える。
終 末 5 分	6 学習の振り返りをする。	■書き方に気をつけて読んでいたら高畑さんのスゴ技を見付けることができた。 ■自分も書き出しを工夫して応援蛙の気分を表現してみたい。	※振り返りの視点を与える。

(3) 具体の評価規準

具体的な子供の姿 (B)	支援を要する児童への手立て
筆者の意図に合わせて、文章と絵を結び付けるなどして、筆者の書き表し方の工夫を見付けている。	板書を見ながら、筆者の工夫を取り出し書くように助言する。

(4) 板書計画

